

整理番号	ユーティリティソープ	作成日	2015年12月9日
4511-00G	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11.05

# 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

製品名	ユーティリティソープ
製品コード	4511
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1-1
担当部門	技術開発部
担当者	奈須 光
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	ハンドソープ
作成日	2015年12月9日
改正日	-
整理番号	4511-00G

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

GHS分類非該当

化粧品

## 3. 組成、成分情報

化学物質 ・ 混合物の区別  
・ 混合物

成分名/化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
水	非公開	7732-18-5	非公開
ポリエチレン	非公開	非公開	非公開
ラウリルベタイン	非公開	非公開	非公開
リモネン	非公開	非公開	非公開
水添ポリイソブテン	非公開	非公開	非公開
BG	非公開	非公開	非公開
アルニカ花エキス	非公開	非公開	非公開
キュウリ果実エキス	非公開	非公開	非公開
セイヨウキズタ葉/茎エキス	非公開	非公開	非公開
ゼニアオイ花エキス	非公開	非公開	非公開
パリエタリアエキス	非公開	非公開	非公開
セイヨウニワトコ花エキス	非公開	非公開	非公開
カルボマー	非公開	非公開	非公開
水酸化Na	非公開	非公開	非公開
オキシベンゾン-3	非公開	非公開	非公開
BHT	非公開	非公開	非公開
メチルククロイソチアゾリノン	非公開	非公開	非公開
メチルイソチアゾリノン	非公開	非公開	非公開
黄4	非公開	非公開	非公開

### PRTR法報告物質

非該当 該当物質は含有しない。

### 毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有するが、規定量以下のため非該当。

### 労働安全衛生法

通知物質 : 法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

非該当 該当物質を指定量以上含有しない。

### 有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

整理番号	ユーティリティソープ	作成日	2015年12月9日
4511-00G	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 05

#### 4. 応急処置

##### 大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

##### 皮膚に付着した場合

- ・毒性・刺激性はほとんどないが、液が付着した場合は、下記のような処置を行う。
- ・液が付着したところをよく洗うこと。
- ・衣服等に付着した場合は脱いで、皮膚に付着した部分をよく洗うこと。

##### 目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗淨する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗淨する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗淨を続ける。
- ・洗淨後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。

##### 飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗淨する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。

##### 最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

##### 応急措置をする者の保護

- ・特になし

##### 医師に対する特別注意事項

- ・特になし

#### 5. 火災時の措置

##### 消火剤

- ・この製品自体は、燃焼しない。

##### 特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

##### 消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

##### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

整理番号	ユーティリティソープ	作成日	2015年12月9日
4511-00G	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 05

#### 環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- ・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

##### 回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

##### 二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。

### 保管

#### 安全な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・容器を密栓すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。

#### 安全な容器包装材料

- ・特になし

## 8. 暴露防止及び保護措置

### 設備対策

- ・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名/化学名	管理濃度	許容濃度
水酸化Na	-	ACGIH(2006) TLV-STEL 2mg/m3(上限値)

### 保護具

#### 呼吸器の保護具

- ・必要に応じて、保護マスク(もしくは、防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。)

#### 目の保護具

- ・必要に応じて、保護眼鏡(普通眼鏡型、ゴーグル型、保護面等)を着用する。

#### 皮膚及び身体の保護具

- ・必要に応じて、保護衣、保護前掛け等を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観	: 黄色粘性液体
臭い	: 柑橘系香料臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 6.9
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: なし
自然発火温度(発火点)	: データなし
燃焼性(固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重	: 0.90

整理番号	ユーティリティソープ	作成日	2015年12月9日
4511-00G	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 05

溶解性	: 水に一部溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度 (粘性率)	: データなし
その他のデータ	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

#### 化学的安定性

- ・ 通常 of 取扱いにおいては安定である。

#### 危険有害反応性の可能性

- ・ 特になし

#### 避けるべき条件

- ・ 特になし

#### 混触危険性物質

- ・ 特になし

#### 危険有害な分解生成物

- ・ 特になし

#### その他

- ・ 特になし

## 11. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

### ・ ポリエチレン

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》  
物理的な接触による擦傷の可能性がある。

《発がん性》  
IARC:3(ポリエチレンとして)

### ・ ラウリルベタイン

《急性毒性》  
経口：LD50 2,000mg/kg以上(ラット、経口)  
経皮：区分外(未知成分29%以外は区分外)  
吸入(ガス)：分類対象外  
吸入(蒸気)：区分外(未知成分29%以外は区分外)  
吸入(粉じん・ミスト)：区分外(未知成分29%以外は区分外)

《皮膚腐食性／刺激性》  
経度(ウサギ、25%)(類似品データ)

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》  
刺激性がある。(5%でラウリルサルフェートの20%と同程度)(ウサギ、Draize法)(類似品データ)

### ・ リモネン

《急性毒性》  
経口：ラットにおけるLD50値 雄 4.4g/kg, 雌 5.1g/kg (CICADs (No. 5, 1998)) に基づき、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)とした。  
経皮：ラットにおけるLD50値 雄 4.4g/kg, 雌 5.1g/kg (CICADs (No. 5, 1998)) に基づき、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分5)とした。

《皮膚腐食性／刺激性》  
ヒト(パッチテスト)において、刺激性が72時間継続し、経皮暴露(2時間)によって火傷、そう痒、痛み、紫斑発疹がみられた(CICADs (No.5, 1998))。ウサギの試験(OECD TG 404)において、皮膚一次刺激指数が8ランク中3.5位を示した。以上の結果およびEU分類でR38(区分2または3相当)である(EU-AnnexI, access on 12. 2008)ことから、区分2とした。

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》  
ウサギにおいて、刺激性が認められている(CICADs (no.5, 1998))が、このデータだけでは区分が特定できないことから、データ不足のため分類できないとした。

整理番号	ユーティリティソープ	作成日	2015年12月9日
4511-00G	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 05

《呼吸器感作性》データなし。

《皮膚感作性》ヒト(パッチテスト)において、10-15分で感作性がみられ(CICADs (No.5, 1998))、モルモットによるMaximization testにおいて感作性が認められた(CICADs (No.5, 1998))。以上の結果およびEU分類においてR43(区分1相当)(EU-AnnexI, access on 12. 2008)、DFGにてSh(MAK/BAT (2007))であることから、区分1とした。

《生殖細胞変異原性》

体細胞in vivo変異原性試験(マウススポット試験)で陰性である(IARC (vol.73, 1999))ことから区分外とした。In vitro試験では、マウスリンフォーマ試験、CHO細胞を用いた染色体異常試験、エームス試験にて陰性結果を示した(CICADs (No.5, 1998)), IARC (vol.73, 1999))。

《発がん性》

IARCでGroup3(IARC Vol. 73,1999)に分類されており、ラット(F344/N)を用いた強制経口投与、生涯試験において、雄でのみ尿管腺腫がみられ、雌に発がん性は認められなかった(CICADs No.5, 1998)。マウス(B6C3F1)を用いた強制経口投与、生涯試験(IARC vol.73, 1999)において、発がん性は認められなかった。ラット雄にみられた所見は、種および性依存性のものであると記述がある(CICADs No. 5, 1998)。したがって、ヒトに対する発がん性は疑われないことから区分外とした。

《生殖毒性》

ラットおよびマウスを用いた催奇形性試験において、母獣に一般毒性がみられる用量で胎児の臓器(胸腺、脾臓、卵巣)重量の減少、骨格変異(腰肋、肋骨の癒合)、化骨遅延がみられた(CICADs (No.5, 1998))が程度が不明であり、親の生殖能力に対する影響の情報がないため分類できない。

標的臓器/全身毒性(単回暴露)

ヒト8人による2時間吸入試験(10, 225, 450 mg/m<sup>3</sup>)において、高濃度群で軽微な肺活量の減退が見られたのみで中枢神経系に関連する異常は見られなかった(CICAD (No.5, 1998))。ボランティアによる経口試験(20g)において下痢、痛みを伴う収縮(painful constriction)およびタンパク尿が認められたが、肝臓(総タンパク、ビリルビン、コレステロール、酵素群)に異常は見られなかった(CICAD (No.5, 1998))。ラットの強制経口試験(0-1200mg/kg bw)において、肝トリグリセリド、microsomal proteins、肝チトクロームb5および薬物代謝酵素類に異常は見られなかった(JECFA (1993))。以上の結果、ヒトおよび動物において重大な変化が認められなかったことから経口、吸入経路では区分外相当であるが、経皮暴露のデータはなく分類できないとした。ラット(Sprague-Dawley)の単回投与試験(雌雄, 0-409mg/kg)にて、409mg/kg群で硝子滴が10を示した(対象群: 3)が、本物質と $\alpha$ 2uグロブリンの関連性が記述されていることから、種および性依存性と判断し分類根拠には採用しなかった。

標的臓器/全身毒性(反復暴露)

ラットによる16日間強制経口試験(0-6600mg/kg (90日換算:73-1173mg/kg))において1650mg/kg群およびそれ以下の投与群において毒性症状および本物質に起因する組織学的変化は認められなかった(JECFA (1993))。ラットによる30日間経口試験(0-2770mg/kg (90日補正: 92-923mg/kg))においては、雄の腎髄質の外側部位に顆粒円柱が認められた以外に臓器重量、尿、血液および生化学検査において変化は認められなかった(JECFA (1993))。以上の結果から経口経路では区分外相当であるが、経皮、吸入暴露のデータはなく分類できないとした。なお、ラット雄で見られた所見は、 $\alpha$ 2uグロブリンの影響が示唆されるため分類根拠には採用しなかった。

#### ・ 水添ポリイソブテン

《急性毒性》

経口: LD50 2000 mg/kg以上(限度試験:蒸留範囲が若干異なる製品の結果)

C12-C17のn-,isi-パラフィン、シクロアルカンの混合物で5000mg/kg以上のデータあり

り

吸入: データなし

《皮膚腐食性・刺激性》

ウサギで中ぐらいの皮膚刺激性 PII=3.7(蒸留範囲が若干異なる製品の結果)

《眼に対する重篤な損傷・眼刺激性》

ウサギで刺激性なし

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性: データなし。

皮膚感作性 : なし(蒸留範囲が若干異なる製品の結果)

整理番号	ユーティリティソープ	作成日	2015年12月9日
4511-00G	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 05

《生殖細胞変異原性》

データなし。(C10-13を主成分とするn-,iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物ではin vitro, in vivoとも陰性)

本製品はC12-C16のiso-パラフィンであり変異原性はないと推定される。

《発がん性》

国際的機関で発ガン性と評価された例はない。

《生殖毒性》

データなし。(C10-13を主成分とするn-,iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物では生殖毒性なし。同属物質であり生殖毒性はないと推定される。)

《特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)》

:データなし。(C9-13を主成分とするn-,iso-パラフィン及びシクロアルカンの混合物の12週吸入試験でNOAEL=2000mg/m<sup>3</sup>。同属物質でさらに分子量が高いのでこのものよりも毒性は低いと推定される )

《吸引性呼吸器有害性》

炭化水素で粘度が低いので肺に入ると危険。

・ カルボマー

《急性毒性》

経口:LD50>10,000mg/kg(ラット)

経皮:LD50>5,000mg/kg(ウサギ)

吸入(ガス):データ無し

吸入(蒸気)データ無し

吸入(粉じん・ミスト):データ無し

《皮膚腐食性/刺激性》

皮膚腐食性:データ無し

皮膚刺激性:一次皮膚刺激は起こらないと考えられる。これは成分及び類似成分のデータに基づく

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

眼刺激は起こらないと考えられる。これは成分及び類似成分のデータに基づく

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:データ無し

皮膚感作性皮膚感作性は起こらないと考えられる。これは成分及び類似成分のデータに基づく

《発がん性》

設定されてない

・ 水酸化Na

《急性毒性》

経口:ウサギのLD50値325mg/kg(SIDS, 2002)のデータのみで、げっ歯類のデータがないため、指針に基づき分類できないとした。

経皮:データなし

吸入:データなし

《皮膚腐食性/刺激性》

ヒト皮膚に対して0.5%以上でirritating(SIDS, 2002)、severe corrosion(DFGOT vol.12, 1999)を引き起こすとの記述及びブタ皮膚に対して8%以上でcorrosion(SIDS, 2002)、ウサギ皮膚に対して5%、4時間でsevere necrosis(ACGIH, 7th, 2001; PATTY, 5th, 2001)を引き起こすとの記述から区分1A-1Cとした。なお、細区分は困難である。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ヒト眼に対してsevere, serious hazardを引き起こすとの記述(ACGIH, 7th, 2001; DFGOT vol.12, 1999; PATTY, 5th, 2001)及びウサギ眼に対して1.2%以上でcorrosiveを引き起こすとの記述(SIDS, 2002)から区分1とした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:データなし。

皮膚感作性:ヒト皮膚での感作性試験でno skin sensitisationとの記述(SIDS, 2002; IUCLID)から区分外とした。

《生殖細胞変異原性》

in vivoマウス骨髄小核試験で陰性(SIDS, 2002)及びin vitro変異原性試験のAmes testで陰性との結果(SIDS, 2002; DFGOT vol.12, 1999)から区分外とした。

《発がん性》

週1回12週間のラット飲水投与において発がん性が認められないとの報告はあるが(DFGOT vol.12, 1999)、データ不足で分類できないとした。

整理番号	ユーティリティソープ	作成日	2015年12月9日
4511-00G	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11.05

《生殖毒性》

Reproductive and developmental toxicityで有用なデータはないとの記述(SIDS, 2002; DFGOT vol.12, 1999)から、データ不足のため分類できないとした。

《標的臓器／全身毒性(単回暴露)》

ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記述(SIDS, 2002; ACGIH, 7th, 2001; DFGOT vol.12, 1999; PATTY, 5th, 2001)から区分1(呼吸器系)とした。

《標的臓器／全身毒性(反復暴露)》

ラットでの吸入反復暴露で肺に障害を与えたとの記述(ACGIH, 7th, 2001; DFGOT vol.12, 1999; PATTY, 5th, 2001)があるが、データ不足のため分類できないとした。

《吸引力呼吸器有害性》

データなし。

・ オキシベンゾン-3

《急性毒性》

経口:ラット LD50=7,400mg/kg

・ メチルイソチアゾリノン

《急性毒性》

経口:LD50 ラット メス 2,630 mg/kg

LD50 ラット オス 3,350 mg/kg

経皮:LD50 ウサギ > 5,000 mg/kg

吸入(粉じん・ミスト):LC50 ラット 4 h 0.33 mg/l 活性成分

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギ 腐食性

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ウサギ 腐食性

《呼吸器感受性又は皮膚感受性》

呼吸器感受性:ギニアピッグ 感作を起こす。

皮膚感受性ギニアピッグ 感作を起こす。

《発がん性》

マウスの皮膚試験及びラットの経口試験のいずれにおいても非発がん性。活性成分

《生殖細胞変異原性》

変異原性ではない 活性成分

《生殖毒性》

この製品は、生殖に関する危険有害性物質ではない。活性成分

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

吸入: 蒸気ないしミストを吸入すると、以下を起こす可能性がある:鼻、喉、肺への刺激

摂取: 飲み込むと有害なことがある。

皮膚: 物質は以下を起こすことがある:皮膚の腐食、火傷

皮膚接触により、過敏な人では感作が起こることがある。

眼: 物質は以下を起こすことがある:眼の腐食 永久的な眼の障害を起こすことがある。

整理番号	ユーティリティソープ	作成日	2015年12月9日
4511-00G	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11.05

## 12. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

### ・ ラウリルベタイン

《水生環境有害性》(急性)  
 <生態毒性>LC50:13mg/l(ヒメダカ、48h)  
 <残留性/分解性>生分解性良好(BOD、CODデータより)  
 <生体蓄積性>データなし  
 <土壌中の移動度>データなし  
 <その他のデータ>[製品0.1%水溶液]BOD:61mg/l、COD:29mg/l

### ・ リモネン

《水生環境有害性》(急性)  
 甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 0.421 mg/L(NICNAS, 2002)から、区分1とした。  
 《水生環境有害性》(慢性)  
 急性毒性区分1であり、急速分解性でない(BIOWIN)ことから、区分1とした。

### ・ 水添ポリイソブテン

《水性環境有害性(急性)》  
 水に対する溶解性が極めて低く溶解度以下では有害影響はないと推定される。  
 《水性環境有害性(慢性)》  
 C8以上のイソパラフィンは概ね難分解であるが低蓄積性。

### ・ カルボマー

《水生環境有害性》(急性)  
 生態毒性:淡水魚LC50 is 100-1000 mg/L  
 水生無脊椎動物LC50 is 100-1000mg/L

### ・ 水酸化Na

《水生環境有害性(急性)》  
 甲殻類(ネコゼミジンコ属)の48時間LC50=40.4mg/L(SIDS、2004)から、区分3とした。  
 《水生環境有害性(慢性)》  
 水溶液が強塩基となるのが毒性の要因と考えられるが、環境水中では緩衝作用により毒性影響が緩和されるため、区分外とした。

### ・ オキシベンゾン-3

《水生環境有害性》(急性)  
 区分2 生態毒性 魚毒性:ヒメダカ LC50(96h) 3.6mg/L

### ・ メチルイソチアゾリノン

《水生環境有害性》(急性)  
 魚類に対する急性毒性  
 LC50 Oncorhynchus mykiss (ニジマス) 96 h OECDテストガイドライン203あるいは同等のもの 0.19 mg/l 活性成分  
 LC50 Lepomis macrochirus (ブルーギル サンフィッシュ) 96 h OECDテストガイドライン203あるいは同等のもの 0.28 mg/l 活性成分  
 無脊椎動物に対する急性毒性  
 EC50 Daphnia magna 48 h FIFRA 77-2 0.16 mg/l 活性成分  
 EC50 Daphnia magna (オオミジンコ) 48 h OECDテストガイドライン202あるいは同等のもの 0.126 mg/l 藻類に対する急性毒性  
 EC50 Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻) 72 h OECD 試験ガイドライン 201 0.003 mg/l 活性成分  
 ErC50 藻類 (Selenastrum capricornutum) 72 h OECD 試験ガイドライン 201 0.003 mg/l 活性成分

オゾン層への有害性： データなし

## 13. 廃棄上の注意

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

整理番号	ユーティリティソープ	作成日	2015年12月9日
4511-00G	横浜油脂工業株式会社	改定日	-

Ver. 11. 05

#### 14. 輸送上の注意

国際規制：

国連分類

該当しない

国連番号

該当しない

容器等級： 該当しない

海洋汚染物質： 非該当

国内規制：

容器イエローラベル

該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・ 荷くずれ防止を確実に行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水漏れ厳禁。
- ・ 横積み厳禁。
- ・ 夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

#### 15. 適用法令

火薬類取締法：

対象外

高圧ガス保安法：

対象外

消防法： ( ) 内は、指定数量

非危険物(消防法上の非危険物)

不燃物である

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)：

該当物質は含むが規定量以下のため非該当。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法：

表示対象物質を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)：

非該当 該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(危険物)：

非該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法 (PRTR法)：

非該当 該当物質は含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

#### 16. その他の情報(参考文献等)

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)  
JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA (日本オートケミカル工業会) 編集：化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版 (日本オートケミカル工業会)

危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者には提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。